

# 学校安全総合支援事業報告書【防災に関すること】

## 熊本県立大津支援学校

住所：菊池郡大津町大字室 1 3 8 1 番地

電話：0 9 6 - 2 9 3 - 0 4 8 6

### I 学校の基本情報

○児童・生徒数：1 6 1 人（3 0 学級）

小学部 4 9 人、中学部 4 3 人、高等部 6 9 人

○職員数：8 9 人

○熊本地震時の状況

・負傷者 児童生徒、職員に主な報告は無し

・家屋の被災

児童生徒 4 8 人（全壊 3、半壊 8、一部損壊 3 7）

職員 3 7 人（全壊 1、半壊 5、一部損壊 3 1）

・校内の被害

廊下の亀裂、重戸棚や教材等の倒れ、水道管の破裂

・避難所の開設

避難所指定はなかったが、高齢の方や障がいのある方を受け入れるため、臨時の避難所を開設した。1 5 日間で延べ 6 4 人の避難があった。

・臨時休校（1 4 日間）

4 月 1 5 日（金）～5 月 9 日（月）

### II 取組の概要

#### 1 経緯

ア 昨年度より大津町と協議を行い、5 月に避難所指定の協定書の締結を行った。

イ 夜間の地震とは別に、授業中に発災した場合の、子ども自身の防災教育の取組が喫緊の課題であるという認識から、今回の取組に至っている。

#### 2 安全教育手法の開発・普及

##### (1) 防災教育の実施

熊本県教育委員会が作成した「学校防災教育指導の手引」を基に防災学習を実施した。学習内容が実際の活動に結びつきやすいように、防災学習と避難訓練を関連付け、自らの命を守る意識や実践力を学ぶ内容を実施した。

<平成 3 0 年度学校防災教育年間計画>

実施月	児童生徒の主な活動内容
4 月	・防災学習「地震災害から身を守る①」 ・地震火災避難訓練
6 月	・防災学習「風水害から身を守る」

9 月	・近隣の仮設団地や施設への花苗の贈呈（高等部）
1 1 月	・熊本シェイクアウト訓練 ・防災学習「地震災害から身を守る②」 ・地震火災避難訓練
2 月	・防災学習「防災対策をしよう」

##### (2) 実践的な避難訓練の実施

ア 緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練

今年度本校に設置した緊急地震速報受信システムを活用した訓練を 2 回実施した。

① 熊本シェイクアウト訓練時

② 地震火災避難訓練時

どちらも、システムの訓練放送を使用した。慌てず、熊本地震後に配備した防災頭巾等を活用し身を守る行動を徹底した。

イ 緊急時引き渡し確認カードの作成と避難訓練での活用

通学圏域が広範囲で、災害時に保護者やそれ以外の方が迎えに来られる事を想定した引き渡し訓練を実施。保護者記入の「緊急時引き渡し確認カード」を新たに作成し、保護者も防災意識を高めるとともに、今回は、職員が保護者役となり、想定される引き渡し完了までの流れを行った。



<引き渡し訓練の様子>

##### (3) 学校安全（防災）アドバイザーの活用

本校専任の学校安全アドバイザーには、4 回来校していただき、講話や学習活動の指導助言等をしていただいた。

＜学校安全アドバイザーの活用内容＞

実施月	主な内容
8月	職員研修 ・講話「防災に関する基本的知識と心構え」 ・クロスロード演習
10月	防災学習公開授業の助言
11月	地震火災避難訓練時の児童生徒への講評及び職員への助言
12月	学校安全計画及び危機管理マニュアルの見直し等に係る指導助言

(4) 地域の方への授業参観の呼びかけ

地域の方への理解啓発のため、防災教育の公開授業と地震火災避難訓練には、地区住民の方へ周知し、授業や訓練を参観していただいた。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

ア 成果

- a 学校防災教育指導の手引を参考に年間計画と授業計画を立てたことで、作成から授業実施まで円滑に進めることができた。
- b 防災学習を避難訓練の日程と関連付けたことで、防災学習で学んだ身を守る動きを、避難訓練で行う児童生徒の姿が見られた。
- c タブレットやデジタルカメラ等の情報機器を活用し、視覚的に災害やとるべき行動を把握させたことにより、実際的な行動力が身についた。

イ 課題

- a 児童生徒一人一人の防災意識と実践力が高まっていけるよう、障がいに応じた授業内容の工夫改善をしていきたい。
- b 通学中の対応等、様々なケースに応じて、適切な行動がとれるように工夫をしていきたい。

(2) 実践的な避難訓練の実施

ア 成果

- a 緊急地震速報受信システムの訓練放送を活用したことで、児童生徒が緊張感を持って適切な防衛行動をとることができた。
- b 緊急時引き渡し確認カードを使って、児童生徒を引き渡す動きまで全職

員でシュミレーションできたことは本校の防災体制の強化につながった。

イ 課題

- a カウントダウン形式の訓練放送は使用しなかった。今後は、児童生徒に事前告知する等の配慮をしながら、取り入れていきたい。
- b 児童生徒の引き渡しまでを想定した訓練をする中で、避難所運営や誘導等、同時進行で行う可能性のある動きや職員の体制作りは、確認が必要であると感じた。安全対策マニュアルの見直しに生かしたい。

(3) 学校安全(防災)アドバイザーの活用

ア 成果

- a 専任のアドバイザーに年間を通じて支援をしていただいたことで、本校の状況に応じた指導助言を受けることができた。
- b 職員向けの研修後に、災害時の対応や熊本地震時の経験談等を職員同士で話題にする場面が見られ、職員の防災意識の向上につながった。

イ 課題

アドバイザーの方は、熊本地震発災時の被災地での活動実績や他の学校への助言、地域での防災に関する実践等、経験が豊富である。今回は助言という形での依頼が主だったが、職員全体で経験談等を聞く機会を設けていれば、より職員の防災意識が高まったと思う。

(4) 地域の方への授業参観の呼びかけ

ア 成果

- a 児童生徒が活動している時の学校の状況を見ていただき、理解啓発としてもよい機会となった。
- b 地域の実情を踏まえた視点からの意見等をいただき、参考になった。福祉避難所として、顔の見える連携の強化にもなった。

イ 課題

区長様を始め、防災士の方等にも参加していただくことができた。今後も継続して、参観の機会を設けながら、参観者を増やしていけるよう努めたい。